

「パンクの女王」と呼ばれた英國のファッショントレーナー、ヴィヴィアン・ウェストウッドさんが昨年12月29日、ロンドンで81歳で亡くなった。挑発的・反体制的なメッセージを込めた服作りで知られ、環境問題や政治への抗議など社会活動を晩年まで続けた。



パリで開催したショーの最後にあいさつするヴィヴィアン・ウェストウッドさん（2005年）＝AP



1990年代に手がけた優雅なドレスの前でポーズをとる。「表現方法が変わっても、体制への批判というテーマは変わらない」と話していた（2005年、東京都内の個展で）



環境保護を訴えるデモに参加するウェストウッドさん（中央）（2014年）＝AP

元美術教師だったウェストウッドさんがデザイナーとして頭角を現したのは1970年代。当時のパートナー、マルコム・マクラーレンさんとロンドンに服飾店を開き、「セック・スピストルズ」の衣装を手がけて有名になった。権力に対抗するようなメッセージのTシャツ、安全ピンや鉢巻きを多用した装飾、過

で亡くなった。挑発的・反体制的なメッセージを込めた服作りで知られ、環境問題や政治への抗議など社会活動を晩年まで続けた。



来日時に開いたショーの会場は、東京・後楽園ホールのボクシングリングを選んだ（2009年）



ウェストウッドさんが最初に開いたブティック「ワールズエンド」。逝去の報に市民らが花を手向けた（1月3日、ロンドン市内で）＝若月美奈さん撮影

ヴィヴィアン・ウェストウッドさんをしのぶ

激なヘアメイクなど、パンクファッショントレーナーと呼ばれるスタイルを確立した。

服飾史家の中野香織さんは、「常識や固定観念を壊し、そこから自分に合ったものを創造した。音楽とファッションを結びつけた功績も大きい」と振り返る。

作風は時代とともに変化し、中世ヨーロッパの伝統を重んじたエレガントな服を重んじたエレガントな服へと移った。英国在住のファッションジャーナリスト、若月美奈さんは、1997年に、彼女にインスピュードした際の言葉が印象に残っている。当時、ジャ

ジーやスポーツウェアを街着として着ることが流行っていた。ウェストウッドさんは、「20年前、社会システムに抗してパンクを始めたが、今、社会に反抗することは、エレガントに装う」と。それこそ合理主義に侵食された現代社会へのアンチテーゼだ」と語った

英國の伝統に奇抜さを融に侵食された現代社会へのアンチテーゼだ」と語った

服やアクセサリーは日本でも、若者を中心に熱狂的に支持を集め、展覧会開催などで度々来日。50代で結婚した25歳年下の夫と創作活動に励み、意欲的な生き方も注目された。

晩年は政治や環境問題に対する活動に力を入れ、シヨーにプラカードを持つたモデルを登場させた。戦車

で首相邸に乗り付け、抗議したこともある。若月さんは「政治や社会の矛盾を、精力的に追及した。信念を貫く姿勢こそ、パンクの神髄」と語る。中野さんは、「『権威』でありながら、常に時代を挑発したエネルギーッシュなデザイナーだった」としのんだ。（生活部 福元理央、伊丹理雄）

モード
UPDATE

社会の矛盾 精力的に追及